

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

肥満症診療ガイドライン 2022

日本肥満学会 肥満症診療ガイドライン作成委員会(委員長 小川 渉)

エビデンスのレベル

Level I：無作為化比較試験や大規模疫学調査、メタアナリシスに基づくデータがある

Level II：小規模の無作為化比較試験や非無作為化研究がある

Level III：専門家の合意(コンセンサス)、あるいは標準的治療

推奨グレード

Grade A：行うよう強く勧められる(その治療に対してエビデンス、もしくは一般的合意がある)

Grade B：行うよう勧められる(その治療に対して確々の意見がある。どちらかというとも有用性がある)

Grade C：科学的根拠に乏しい、もしくは一般的合意がないので勧められない

Grade D：行うべきではない

ライフサイエンス出版 2022 年 12 月 2 日発行

Minds 掲載 無

■1 漢方薬 (抑肝散、柴胡加竜骨牡蛎湯など)

疾患:

精神症状

有効性に関する記載ないしその要約:

『表 9-7 精神症状に使用する各薬物の特徴』のなかで以下の記載がある。

『衝動的な食行動やうつ症状などのさまざまな精神症状に有用な場合がある。副作用や相互作用を最小限に抑えられる。』